

令和4年4月1日

令和4年度 教育研究について

三原市立第五中学校

研究テーマ 思考力・表現力を育成する授業づくり
～ICT 機器の積極的な活用を通して～

【本校で育成をめざす資質・能力：思考力・表現力・主体性・協調性】

1 昨年度の成果と課題

(1) 昨年度の成果

- ・平日の学習時間確保に向け、全学年で共通の課題（第 GO ノート）を導入。
→平日の学習時間を 30 分以上確保できた生徒は全校で 87% となった。
- ・ICT 機器を活用した研究授業等で、授業改善に向けた研修を重ね、生徒自ら活用し思考を整理させる指導を行う意識が浸透した。
→教職員アンケートで 88% が肯定的回答。

(2) 昨年度の課題

- ・考えをまとめたり、分からないことを調べたりするときに、パソコンやタブレットを使っているが、それが学力向上に結び付いていない。（アンケートの肯定的評価が全体で 88%）
→活用する時間は確保できたが、思考の深まりをアウトプットする場の確保が不十分。
- ・学校評価の指標とした、実力テストの平均点が回を追うごとに低下。
→学習時間が学力の定着に結びつかず、誤答をもとにした学習や記述問題への取組が不十分。

2 取組の概要

(1) 授業改善

①ICT 機器の積極的な活用の推進

- ・考えを可視化したり、共有したりするなど、授業における活用を進める。
- ・学級活動やアンケートなど、校務に関わる場面での活用を進める。

②本質的な問いを意識した単元構成・単元開発を行う

- ・研究授業での単元構想シートの活用

(2) 家庭学習の充実 ⇒基礎学力の向上を目指す

①教科での工夫：家庭学習を活かした授業づくり

- ・フォームでの単語テストやドキュメントでのレポート作成、録画機能を使った音読テストなど ICT 機器の積極的な活用

②学年の取組：実態に応じた「第 GO ノート」の活用と点検 ※個の特性にも配慮する

(3) 学習分析事業の活用

①学力向上に向けて放課後等での学力補充での学力補充や学び方の指導・支援のための体制をつくる

- ・学力補充担当教員を中心とした組織的な対応と丁寧な家庭との連携から、自己肯定感の向上を目指す

(4) 特別支援学級支援プロジェクト（県事業）

- ・自閉症・情緒障害特別支援学級における授業改善

3 研修の概要

【全体研修】

(1) 講師招聘による研修（草原和博先生 広島大学大学院 大学院人間社会科学研究科 教授）

- ① 理論研修（5月）・まとめの研修（2月）
- ② 研究授業・協議会（1学期1回・公開研究会1回・3学期1回）
- ③ 授業参観：参観と講評（全教職員に実施）

※ 回数をわけ、対象者を絞って実施 ※ 公開研究会研究授業の事前授業研修

○課題発見・解決学習の単元で、ICT 機器を活用して一人ずつ研究授業をする。

○各教科での学力向上検討会の実施（学期に1度程度）

10月、1月の生徒アンケートや、定期試験、実力テスト、学習分析事業（NRT・Hyper-QU）、全国学力・学習状況調査などの結果を踏まえ、各教科の教員で学力面についての反省や検討を行う。

4 達成目標

(1) 「思考力・表現力」を高める。

標準学力調査「活用」問題の正答率における、校内平均と全国平均との比率を1（100%）以上にする。

(2) ICT 機器の積極的な活用による授業改善

- ・生徒・教職員アンケート「ICT 活用」に係る設問→肯定的回答を80%以上

(3) 家庭学習の時間と質の充実

- ・生徒・教職員アンケート「家庭学習」に係る設問→肯定的回答を80%以上

5 年間スケジュール（案）

期 日	教科・領域等	授業者	研 修 内 容	指 導 者
4月27日	全教科全領域		今年度の教育研究について本質的な問いについて	指導主事
5月	英 語	井出	教科研修 B	
5月	国 語	安保	教科研修 B	
6月	社 会	森本	全体研修 A	大学教授
6月	数 学	福澤	教科研修 B	
9月	美 術	梶谷	教科研修 B	

10月	理 科	森安	教科研修 B	
10月17日	数 学	中尾	公開研究会（2年目研修）A	大学教授 指導主事
10月17日	体 育	武	公開研究会 A	大学教授 指導主事
10月17日	理 科	岡本	公開研究会 A	大学教授 指導主事
11月	体 育	舩金	教科研修（2年目研修）B	指導主事
11月	英 語	陽山	教科研修 B	
11月	音 楽	榊宗	教科研修 B	
1月	社 会	瀧奥	教科研修（6年目研修）A	大学教授
2月	技 術	中石	教科研修 B	
2月	英 語	川崎	教科研修 B	指導主事
2月	国 語	宇根崎	教科研修（初任研）B	
2月	まとめの研修		全体研修	

※文字教諭は特別支援学級プロジェクトで研究授業を実施する

※ 一人一指導案の原則で、全員が最低一回は研究授業をする

【研究授業・協議会の体制】

A 全員での研修：教育研究に関わる全体研修・年間3回

B 教科研修（指定研修含む）：2年目研（2）、3年目研（1）、6年目研（1）
各教科担当者が参加

C 特別支援学級研修：特別支援学級担任による授業
特別支援学級担任・交流学級担任・養護教諭

6 【めあて】・【まとめ】の書き方・【振り返り】の記述指導

(1) 【めあて】 ←生徒に示す表現（本時の目標）

★単元の初めには、単元の目標（この単元でどんな力が付くか）と学習の見通しを話す。

★時間ごとの目標は、活動を通して どんな力が付くかを示す。

例) 「〇〇を通して、～することができる」

(2) 【まとめ】 基本毎時間（教科特性配慮）

その時間にできるようになったこと・わかったこと→【めあて】と対応

★発表させる。

★手を挙げさせる。

★教科係に言わせる。

★評価票（振り返りシート）に書かせる。

※どの方法をとってもよい。

※場合によっては教師主導も可。

めあて **まとめ** **振り返** のマグネットを各教室に置いています。
活用をお願いします。

(3) 【振り返り】 基本単元終了後（毎時間でも可・教科特性配慮）

自分の学習（態度・習得）を文章で自己評価させる。

★単元の評価票（単元の振り返りシート）に書かせる。→基本「記述」の形を取る。

★自分に身に付いた知識や技能を確認（メタ認知）し、今後の学習につなげていく。

（つなげていける）ことを意識させる。

※学習の振り返りを文章化することを、「思考力・判断力・表現力」の向上につなげる。

※箇条書きではなく、3文以上の文章にする。

参考例 国語「熟語の構成」

【めあて】 読み方を工夫することで、熟語の構成を見分けることができる。

【まとめ】 「訓読み」をして意味を考えると、熟語の構成がわかる。

【振り返り】 熟語の組み立て方にはいろいろな種類があり、文法のようなルールがあることが分かりました。また、熟語の構成がわかると、その熟語の意味を理解することもできるということも分かりました。だからこれができるようになると、辞書がなくても言葉の意味がわかると思います。訓読みがわからないと、熟語の構成も分からないので、漢字の勉強も頑張っていこうと思います。

8 新学習指導要領へ対応した評価

「学習評価の在り方ハンドブック（国立教育政策研究所）」には、「学習評価」について、次の3点が基本的な考え方のポイントとして示されています。

- 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性、妥当性が認められないものは見直していくこと

次の授業では〇〇を重点的に指導しよう。

〇〇のところはもっと～した方がよいですね。

また、「学習指導」と「学習評価」は、教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っているということです。詳しくは、リーフレットをご覧ください。

9 カリキュラム・マネジメントの取組について

これからの時代に求められる資質・能力を育むためには、教科等横断的な視点で学習を成り立たせていくことが必要であるといわれています。そこで、重点単元（課題発見・解決学習）を決めて、「年間指導計画」の見直しにつなげていきましょう。

【関連する箇所のつなげ方の例】

- ★教科等の学習を総合的な学習の時間に生かす。
- ★総合的な学習の時間を教科等の学習に生かす。
- ★教科と教科の学びをつなげて学習を深める。

- ①活動の関連に着目してつなげる
- ②内容の関連に着目してつなげる。
- ③教科の系統性に着目してつなげる。

【課題の設定】⇒【情報の収集】⇒【整理・分析】⇒【まとめ・創造・表現】⇒【実行】⇒【振返】

令和4年度 学校として育成を目指す資質・能力 系統表

資質・能力	学校で育成をめざす資質・能力	レベルⅠ 中：1年生	レベルⅡ 中：2年生	レベルⅢ 中：3年生
知識及び技能	知識・技能	各教科・領域等で求められている知識・技能を身に付けている。		
思考力, 判断力, 表現力等	思考力	既存の知識と新たな情報を適切に組み合わせ, それらを根拠に考えている。	複数の情報から関係性を見出し, 根拠をもとに自分の意見を持っている。	根拠をもとに, 建設的な方向で自分の意見を深めながら, 論理的に考えている。
	表現力	根拠を明確にしなが, 自分の考えを話したり書いたりすることができる。	根拠の適切さを考えて, 説明や具体例を加えて, 自分の考えを話したり書いたりすることができる。	データや資料の分析を根拠に, 自分の考えが分かりやすく伝わるように話したり書いたりすることができる。
学びに向かう力, 人間性等	主体性	課題に対する自分の考えをもっている。	課題に対する自分の考えを持ち, 進んで行動している。	課題に対する自分の考えを持ち, 解決のためのよりよい方法を選択して, 進んで行動している。
	協調性	仲間の意見を聞き, 協力して取り組んでいる。	仲間の意見を受けとめ, よりよい解決に向けて, 協力して取り組んでいる。	自分と異なる意見や立場を大切に, よりよい解決に向けて, 協働して取り組んでいる。